

令和7年度 第1回安曇野市健康づくり推進協議会

1	審議会名	安曇野市健康づくり推進協議会
2	日 時	令和7年7月23日(水) 午後1時30分から午後3時まで
3	会 場	安曇野市 豊科公民館 大会議室
4	出席者	伊藤会長、山本洋平委員、小林委員、小柳委員、米澤委員、 青柳委員、鎌崎委員、飯澤委員、中田委員、細萱委員、小杉委員
5	市側出席者	渡邊部長、太田課長、二木課長、矢花係長、小松係長、宮下係長 浅川課長補佐、佐野課長補佐、草間係長、小林係長、村田係長、 藤原係長
6	公開・非公開の別	公開
7	傍聴人	0人 記者 0人
8	会議概要作成年月日	令和7年8月28日
協 議 内 容		
【新規委員の委嘱】 ○任期 令和8年6月30日（前任者の在任期間） 武田委員、山本朋章委員、山田洋平委員、小柳委員、米澤委員 職務代理 武田委員（安曇野市医師会）会長により指名 【協議事項】 1 令和6年度保健事業報告について 2 令和7年度保健事業計画について 3 歯科口腔保健部会会長・副会長の指名について 4 その他 【会議概要】 1 令和6年度保健事業報告について ○ 資料に基づき令和6年度の保健事業報告について、市の状況や新規・重点事業を中心に説明。 ・市の総人口は減少傾向。高齢者（65歳以上）の人口割合は増加しており、令和6年の高齢化率は32.1%。 ・出生数は年々減少していたが、令和5年は令和4年より25人増加した。しかし、現在市で把握している令和6年の出生数は439人で、令和5年よりも100人以上減少している。 ・要介護要支援認定者数も増加している。第2号被保険者の新規要介護認定の原因疾患では、脳血管疾患が最も多い。 ・出産子育て応援事業について、妊娠届け出時の面談、妊婦等訪問指導、産婦・新生児等訪問等で必要な面談を行うと共に、出産応援給付金、子育て応援給付金の給付を行い、経済的支援を一体的に実施している。 ・妊娠届け出時マタニティーアンケート及び、妊娠5～6か月頃マタニティーアンケートは、いずれも高い率で回答を得ている。回答内容に基づき、早い時期から関わりが持てるよう取り組んでいる。 ・産後ケア事業として、出産後の育児不安などの軽減の為に、①宿泊型、②通所型、③訪問型の三つの方法で支援している。 ・事業全体の利用者実数は130人。宿泊型の利用者数に大きな変化はないが、令和5年からサービスを拡充した通所型・訪問型の利用は増加しており、特に訪問型の利用が増えている。		

る。利用者のニーズに合わせて利用ができていると考えられる。

- ・ オプショナル新生児スクリーニング検査費用助成事業は、令和4年10月より安曇野市で検査費用の助成を実施していたが、令和6年10月から県による実証事業に変更となった。令和6年9月末までの対象者及び10月以降、県の実証事業の対象外となった者への助成をあわせて、令和6年度の助成件数は217件となっている。
- ・ 国保特定健康診査では、集団健診・個別健診・人間ドック・通院治療者情報提供みなし健診を実施。令和5年度の速報値では、安曇野市の受診率は47.7%となっている。
- ・ 特定保健指導の対象者は、受診者の1割ほどとなっている。
- ・ 特定保健指導の実施率は令和6年度の速報値で43.9%となっている。現時点で令和5年度の実施率を超えている。引き続き、特定保健指導率の向上に向けて取り組みを続ける。
- ・ 高齢者の保健事業と介護予防について、高齢者が抱える健康課題に対応して、重症化予防、介護予防を図るために、国保年金課、高齢者介護課、健康支援課が連携し一体となって実施している。
- ・ 成人歯科健診について令和6年度より、節目年齢に20歳と30歳を追加して実施している。それに伴い、令和6年度は受診者数が増加している。節目年齢の受診において、20歳30歳の受診率が40歳、50歳よりも高い結果となっている。
- ・ 感染症対策について新型コロナウイルスワクチンの接種率は、32.1%となっている。
- ・ 令和元年から令和6年までの6年間風疹追加的対策事業を実施した。令和6年までに抗体検査を行って陰性だった対象者は、特例として令和9年まで公費による麻疹風疹混合ワクチンの接種が可能となっており、該当者の方へ通知を送っている。
- ・ HPVキャッチアップ接種事業について、令和5年度実績856対して、令和6年度実績は2,344と大幅に増加している。令和6年度が最終年度であり、接種勧奨を実施した結果と考えられる。
- ・ 精神保健自殺対策について、精神疾患を抱えている方だけではなく、精神保健に課題を抱えている方への相談支援や、訪問指導を実施している他、心の健康づくりに関する講演会や、自殺対策としてゲートキーパー研修会を開催している。
- ・ 安曇野市健康づくり推進委員会は令和6年3月31日をもって廃止となったが、地区担当の保健師の方が窓口となって、健康づくり活動への支援は継続して実施して行く。

<主な意見>

(委員) 歯周組織状況で、20代30代が多くて40・50・60歳の方の少ないのは、どういうことが考えられるか？

(事務局) 40代・50代は節目で実施するのに対して、20代30代は20歳から29歳まで、30歳から39歳までを対象としており、対象人数が多いため増えている。

(委員) 新生児訪問時の産後うつに関する質問結果について、高得点者の割合が高くなったことをどのように評価しているか。高かった方へのフォロー結果がどういうふうになっているのか。

子育てで母乳・育児用ミルク・混合栄養があるが、母乳が下がっており、育児用ミルクで子育ての方がかなり上がり、混合栄養は横ばいとなっている。最近のお母さん方の子育てへの意識の変化がどのようになっているか、状況が分かれば教えていただき

たい。

重症化予防のための健診・保健指導の二次健診について、受診者の数が37とあるが、該当者何人の内の37人であったのか。

小中学生の保健指導ヘモグロビンA1cが5.9%以上の方を対象に健康相談を希望した方に実施となっているが、保健指導の対象者は5年生16名中学生17名に対して、相談実績は0と2と少ない。600人に採血をした意味が余り感じられない。

要受診判定者がどのくらいであったかも聞きたい。

(事務局) 産後うつに関する質問結果については産後のイメージがつかない方が増えてきているのではないかと考えている。両親学級という事業を立ち上げて産後の生活のイメージが分かるように努めている。

子育てについて、母親の心身の不安や、父親の育児参加が進んだために、母乳ではなく乳児用ミルクを使う家庭が増えていると考えている。

二次検診の対象者は毎年概ね100から150である。

健診・保健指導の二次健診は希望者が対象となるため、数が少なくなっている。該当者の人数は把握していない。血液検査についても、同様に人数を把握していない。今後間口を広げて取り組んでいきたい。

(委員) 今年でHPVワクチンのキャッチアップ接種が終わってしまうので、周知して欲しい。

2 令和7年度保健事業計画について

- ・母子保健について、新規事業として両親学級を年3回実施。また、1ヶ月児健康診査の費用助成を行う。重点事業として、妊婦等訪問指導や産婦新生児等訪問指導等の伴走型相談支援の充実、産後ケア事業の実施と実施機関との連携、多職種連携による乳幼児健診相談等を実施する。
- ・成人保健について、重点事業として特定保健指導、重症化予防のための保健指導の取り組みを行う。
- ・精神保健について、重点事業として心の健康を考えるゲートキーパー研修会の開催を予定している。
- ・食育推進について、知識の普及啓発、保健指導、認定こども園、小中学校における食育の推進に取り組む。
- ・感染症予防等について、HPVワクチンの接種の勧奨、带状疱疹ワクチンの定期接種を新規に実施する。また、5種混合の予防接種を4月から始めている。高齢者のインフルエンザ予防接種に関して昨年度は10月から12月下旬までだったが、今年度は1月末までに延長した。
- ・母乳相談等助成事業（医療機関または助産所で行う母乳相談に対し、2000円の助成券を2枚交付）の利用期間を産後1年未満から1年6月以内まで延長した。
- ・夜間急病センターの診療時間について今まで午後7時から10時までだったが、令和7年7月1日より9時までに短縮となった。

<主な意見>

(委員) 昨年度の会議において、こども園の給食の味が薄く子供たちが余り食べないので注意

して欲しいと依頼したがどのようになっているか。

(事務局) 子ども園幼稚園課に伝えている。子ども園でも食育には力を入れて取り組んでいると認識している。

(委員) フレイル予防の運動の関係についてはどのように取り組んでいるか。

(事務局) 高齢者介護課において介護予防教室を実施している。健康支援課では、個別に健康運動指導士の相談を行っている。

(委員) 疾病の予兆を発見し医療費を抑制するために、健診の受診者を増やし、また健診の項目を充実させるよう努めて欲しい。

(委員) 食育に関連し、農政課なども地産地消の独自に事業を行っていると思うので、いろいろな課が連携して事業を行っている事を明確に示してはどうか。また、後期高齢期になって来たら、しっかりと食べることが大事だという知識を広げるようにも努めて欲しい。

3 歯科口腔保健部会会長・副会長の指名について

- ・安曇野市歯科医師会からの推薦により、新たに歯科口腔保健部会の方の委員となる飯嶋委員を会長に、山本洋平委員副会長に指名した。

4 その他

- ・保健センター条例の一部を改正し、堀金総合福祉センター及び明科総合福祉センターが、指定管理者によって管理されるようになるのに伴って、堀金保健センターと明科保健センターも一体として指定管理者により管理されることとした。
- ・穂高健康支援センター大規模改修工事を実施する。
- ・堀金総合福祉センターの大規模改修等により、少なくとも令和9年度までは堀金保健センターを休止となる。この間の保健事業は、他の保健センターにおいて実施する。

<主な意見>

(委員) 堀金保健センターについて、堀金地域の方にアナウンスして欲しい。

<全体を通しての意見>

(委員) せっかく多くの方に来ていただいているので、この協議会を成果が出るものにつなげて欲しい。